

研究・調査報告書

報告書番号	担当
183	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名（原題／訳）	
Lifestyle factors and risk of dementia: Dubbo Study of the elderly 生活習慣因子と認知症のリスク：Dubbo 老年研究	
執筆者	
Simons LA, Simons J, McCallum J, Friedlander Y.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Med J Aust. 2006; 16;184:68-70	
キーワード	
認知症、ライフスタイル、コホート研究	
要 旨	
<p>目的：豪州の老年者を対象としたコホートで、認知症の危険因子を同定すること</p> <p>研究デザイン：New South Wales 州，Dubbo における前向きコホート研究</p> <p>対象者：1988 年に初回検査を、16 年間追跡された、地域に居住し認知障害のない 60 歳以上の男女 2805 名</p> <p>主要評価項目：病院・老人介護施設への認知症のための入院</p> <p>結果：1233 名の男性中 115 名、1572 名の女性中 170 名の認知症の症例があった。比例ハザードモデルでは、アルコール摂取により 34%のリスク減少を、普段の庭仕事により 36%のリスク減少を示した。男性では普段歩行する人が 38%リスク減少を示したが女性では有意でなかった。最大呼気量の低い群は 84%の危険度上昇、うつ尺度が高い群では 50%の危険度上昇が示された。</p> <p>結論：過剰なアルコール摂取を回避する一方、日常的にアルコール摂取する人においては適度なアルコール摂取を継続することが、安全かつ推薦に価することがわかった。同様に、身体運動能力の維持、とくに普段の庭仕事が将来的な認知症発生の減少に関連していた。</p>	